

産学官連携による都市型 コミュニティ・スクール

地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる
人材の育成に資する産学官連携による人の地域循環教育

発 表 者 宮崎県立宮崎南高等学校 学 校 長 山 尾 典 子
指導教諭 河 原 美那子

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
宮崎県宮崎市	1029名	令和4年度	10名	3回	なし

学校教育目標

地域に愛され、地域と共に歩み、自己実現のために果敢に挑戦する生徒を育成する学校

学校・地域の特徴

宮崎県の県庁所在地である宮崎市に位置し、今年で創立64年を迎える伝統校である。地域の特徴としては、生産人口の減少が目立ち、若者の県外流出をくい止めることが課題である。



学校運営協議会の概要

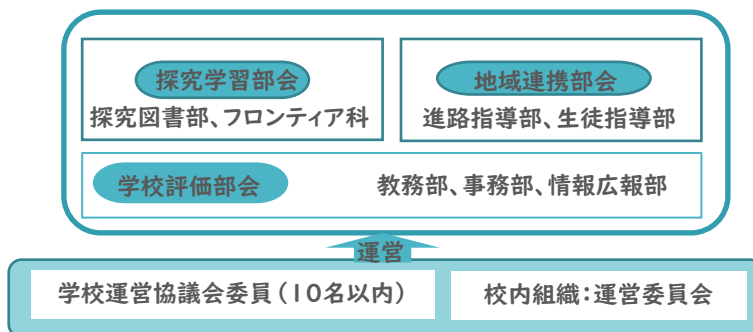
委員の構成

- ・校長
- ・保護者
- ・地域住民
- ・同窓会の関係者
- ・民間企業の関係者
- ・大学の関係者
- ・市立学校の関係者

これまでの主な議題例

- ・探究学習充実のために地域ができること
- ・職員の働き方改革について
- ・成果を数値化するためには
- ・外からの視点の育成について

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

探究学習部会

探究学習を通じて地域の課題を自分事として考える生徒の育成
【学びの指導：大学との連携】

地域連携部会

元気と活力のある地域～まちづくり 地域を支える人材～ひとり～
【学びの場：地域との連携】

学校評価部会

教育活動全体・学校運営改善のためのPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメント

産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

課題

- ・若年層の県外流出の増加
- ・郷土に魅力を感じていない生徒の増加
- ・自分の可能性に気づいていない生徒の増加

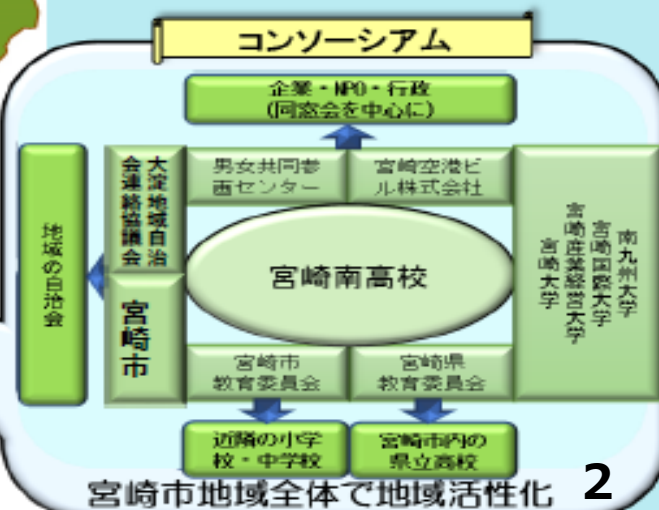
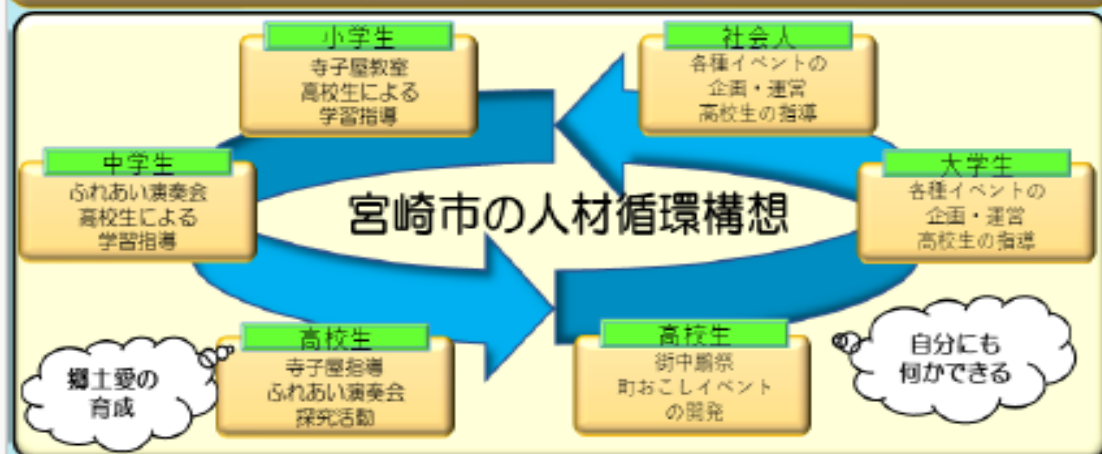
開発の目標

- ・身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案、実践できる人材の育成
- ・宮崎市内の高校にも普及させ、地元活性化に人材を発掘できるコンソーシアムを構築

研究概要



地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成



コンソーシアム形成の経緯

課題

- ・ 若年層の県外流失の増加
- ・ 郷土に魅力を感じていない、自分の可能性に気づいていない生徒の増加

質問事項 (％)

宮崎県外での就職を考える生徒	40
県外就職希望の生徒で地元 に魅力を感じないと答えた生徒	42

表１：郷土に関する意識調査（H31）

目標

- ・ 身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案、実践できる人材の育成
- ・ 宮崎市内の高校にも普及させ、地元活性化に人材を発掘できるコンソーシアムを構築

地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成
→探究学習を通じて地域に残る生徒をどう育成するか

コンソーシアムからコミュニティ・スクール形成まで



写真1：コンソーシアム会議の様子

疑問

- ・生徒を地域に残すことが地域のためになるのか

検討事項

- ・若者（生産人口）を県外流出は防ぎたい
- ・地域の発展のためには宮崎県以外の国内外で活躍した人材の視点やサポートも必要ではないか
- ・一地域だけの発展を考えるだけで良いのか

コンソーシアムからコミュニティ・スクール形成まで

結論

- ・ 地域に戻りたいと思える気持ちの育成
→ 地元愛の醸成と確かな学力の育成
- ・ 地域に戻れる環境の整備
→ 地元で働ける環境の整備
- ・ 県全体の課題として考えて行くべき課題ではないか
→ 広い視野で取り組むコミュニティの形成が必要

必要な変化

- ・ 地域と学校が探究学習のみ連携
→ 地域と学校運営の連携が必要
- ・ 一時的プロジェクト
→ 長期的な運営体制の構築が必要

コンソーシアムからコミュニティ・スクール形成に至る

地元愛の醸成と確かな学力の育成のために

探究的な学び

(自分が何をやりたいか、何ができるか)

地域資源の価値を知る

地域の課題を考える

課題解決について複眼的視点で取り組む

地域への貢献

(お互いの必要性を実感)

地域のニーズに応えるボランティア活動

地域と協力して取り組む協働的活動

地域の人、物的資源より学ぶ修学的活動

地域的心声を反映させる
(地域から求められる学校)

地元愛の醸成と確かな学力の育成のために

探究学習部会

（自分が何をやりたいか、何ができるか）

地域資源の価値を知る

地域の課題を考える

課題解決について複眼的視点で取り組む

地域への貢献

（お互いの必要性を実感）

地域のニーズに応えるボランティア活動

地域と協力して取り組む協働的活動

地域の人、物的資源より学ぶ修学的活動

地域的心声を反映させる
（地域から求められる学校）

地元愛の醸成と確かな学力の育成のために

探究学習部会

(自分が何をやりたいか、何ができるか)

地域資源の価値
を知る地域の課題を考
える課題解決につい
て複眼的視点で
取り組む

地域連携部会

(お互いの必要性を実感)

地域のニーズに
応えるボランテ
ィア活動地域と協力して
取り組む協働的
活動地域の人、物的
資源より学ぶ修
学的活動地域の声を反映させる
(地域から求められる学校)

地元愛の醸成と確かな学力の育成のために

探究学習部会

(自分が何をやりたいか、何ができるか)

地域資源の価値
を知る地域の課題を考
える課題解決につい
て複眼的視点で
取り組む

地域連携部会

(お互いの必要性を実感)

地域のニーズに
応えるボランテ
ィア活動地域と協力して
取り組む協働的
活動地域の人、物的
資源より学ぶ修
学的活動

学校評議会

(地域から求められる学校)

コミュニティ・スクールの形成

探究学習部会

(自分が何をやりたいか、何ができるか)

地域資源の価値
を知る地域の課題を考
える課題解決につい
て複眼的視点で
取り組む

地域連携部会

(お互いの必要性を実感)

地域のニーズに
応えるボランテ
ィア活動地域と協力して
取り組む協働的
活動地域の人、物的
資源より学ぶ修
学的活動

学校評議部会

(地域から求められる学校)

産学官連携による都市型コミュニティ・スクール

～地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成に資する 産学官連携による人の地域循環教育～

都市型コミュニティ・スクールについて

弱み

- ・ 1市1校ではない → 行政と連携が組みにくい
- ・ 学区がない → 小中学校との連携をどうするか
→ 地域の定義が難しい

強み

- ・ 多くの大学と連携実績あり
- ・ 学区がない → 多くの視点を持った生徒が入学

役割

県を中心都市に位置する → 県全体を地域と捉える
宮崎県全体を俯瞰して考え、支える人材の育成

宮崎県全体での連携

都市型コミュニティ・スクール

課題点（コンソーシアム形成時期）

校内

- ・ 職員の業務の多忙化
- ・ 生徒の活動の多忙化

校外

- ・ 大学がやりたい指導と高校が求める指導の異なり
- ・ 地域が求めることを高校が十分にできない



結論

- ・ お互いがメリットを感じない

改善点（コンソーシアム形成時期）

校内

- ・ 職員の業務の多忙化
 - 組織化を強化することで業務内容のスリム化を図る
 - 地域の期待すべてに応えない（出来る範囲でやる）
- ・ 生徒の活動の多忙化
 - 生徒の活動時間の制限

校外

- ・ 大学がやりたい指導と高校が求める指導の異なり
- ・ 地域が求めることを高校が十分にできない
 - 目標を再確認し共有する、十分な話し合いを実施

結果

- ・ お互いが出来る範囲で協力していく関係性を構築

意識の変化について（校内：組織化強化で業務内容のスリム化）

（例）探究学習



写真 2：ミニ担当者会の様子

ミニ担当者会の実施

- 実施日程：総合的な探究時間実施日の放課後（30分）
- 対象者：希望職員（自由参加）
- 内容：困りごとのある職員の相談会

✓既読 1年普通科図南掲示板	お知らせ/一般	7
✓既読 2年普通科図南掲示板	✎×2 お知らせ/一般	11
✓既読 フロンティア科1年総合科学用掲示板	✎×2 お知らせ/一般	2
✓既読 R7 2年総合科学掲示板	✎×1 お知らせ/一般	7

電子掲示板の利用

- 職員の情報共有の場として利用
- ミニ担当者会に出席できない先生方の意見発信の場として活用



部会で意見を集約し、次回の授業、または次年度に生かす

意識の変化について（校外：十分な話し合いを実施）



依頼内容事前説明挨拶

- 実施時期：年度当初（４～５月）
- 訪問先：各大学（６大学１０学科）、企業など
- 訪問者：管理職（１名）、フロンティア科主任、探究図書部主任

写真３：事前説明会の様子



学校運営協議会

- 実施回数：学期ごとの１回（年３回）
- 内 容：全体の協議
各部会ごとに分かれての協議
（学校評議部会、地域連携部会、探究学習部会）

写真４：コミュニティ・スクールの様子



目標や昨年度から今年度の改善点の共有

意識の変化について（生徒の変容）

第2学年生徒研究発表における本校独自の評価の外部評価（最大値4）
の変容

○普通科

	課題設定力	行動力	コミュニケーション力	情報収集力	批判的思考力	共感力	平均
R4	2.12	2.25	2.58	2.15	2.07	2.34	2.25
R5	2.37	2.37	2.64	2.15	2.09	2.50	2.35
R6	2.68	2.65	3.00	2.62	2.35	2.76	2.68

表2：第2学年普通科の評価

○フロンティア科

	課題設定力	行動力	コミュニケーション力	情報収集力	批判的思考力	共感力	平均
R4	2.86	3.02	3.04	2.84	2.76	2.76	2.88
R5	3.09	3.25	3.25	2.89	2.89	3.14	3.09
R6	3.11	2.95	3.24	2.85	2.82	3.07	3.01

表3：第2学年フロンティア科の評価

意識の変化について（生徒の変容）

高校魅力化システムの結果より

○総括表（学習環境の肯定的回答割合）

	主体性	協働性	探究性	社会性
R4	80.0	72.7	73.9	64.0
R5	85.4	73.1	77.1	61.0
R6	87.3	78.0	81.9	67.2

表4：高校魅力化システム総括表（学習環境）

○総括表（ウェルビーイングの肯定的回答割合）

	主体性	協働性	探究性	社会性
R4	56.1	79.0	75.8	64.0
R5	62.8	80.9	77.1	60.5
R6	65.7	84.5	79.8	67.3

表5：高校魅力化システム総括表（ウェルビーイング）

意識の変化について（生徒の変容）

高校魅力化システムの結果より

社会性に関わる自己認識	本校平均	県平均	全国
全体平均値	68.5%	63.8%	61.9%
65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	55.6%	46.9%	43.0%
56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	69.8%	66.4%	59.2%
58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	75.8%	72.0%	66.9%
57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	55.2%	49.1%	48.9%
62.地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	75.0%	69.0%	69.4%
55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	83.4%	83.3%	80.7%
64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	74.7%	76.0%	73.9%
<u>63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う</u>	54.4%	43.7%	45.3%
<u>60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい</u>	64.5%	58.9%	56.1%
68.自分の将来について明るい希望を持っている	76.9%	72.0%	73.3%

表6：高校魅力化システム（社会性に関わる自己認識） 平均値比較表

産学官連携による都市型コミュニティ・スクール

地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成に資する産学官連携による人の地域循環教育

基本コンセプト

地域の教育資源を幅広く活用した探究的な学びを重視し、郷土愛を育みながら、持続可能な社会の創り手としての視点をもった次世代のリーダー及び地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成

探究学習部会

探究学習を通じて地域の課題を自分事として考える生徒の育成

探究図書部、フロンティア科

地域連携部会

元気と活力のある地域～まちづくり 地域を支える人材～ひとづくり～

進路指導部、生徒指導部

学校評価部会

教育活動全体・学校運営改善のためのPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメント

教務部、事務部、情報広報部

運営

学校運営協議会委員（10名以内）

校長、保護者、地域住民、同窓会の関係者、民間企業の関係者、大学の関係者、市立学校の関係者 他

校内組織：運営委員会

◎教頭 ○主幹教諭等、事務部

本校の探究プログラム

プログラム		Ⅰ					Ⅱ					Ⅲ		
対象学年		Ⅰ 学年					Ⅱ 2学年					Ⅲ 3学年		
取り組み内容	全学科共通	探究基礎	鵬イノベーション コンテスト (以下トリコン)	鵬ドリカム講座	トリコン分野別発表	探究活動のまとめⅠ	グループ探究準備	グループ探究テーマ設定	グループ探究計画発表	グループ探究中間発表	グループ探究生徒研究発表	探究活動のまとめ2	探究活動再検討	MSECフォーラム 進路探究
	フロンティア科のみ	English Day①	企業訪問	English Day②	English Day③		大学訪問(5回)		English Day④	探究活動英語ポスター作成	探究活動英語発表	English Day⑤	各自の活動	

本校の探究プログラムとコミスク連携プログラム

プログラム		Ⅰ					Ⅱ					Ⅲ		
対象学年		Ⅰ 学年					Ⅱ 2学年					Ⅲ 3学年		
取り組み内容	全学科共通	探究基礎	鵬イノベーションコンテスト（以下トリコン）	鵬ドリカム講座	トリコン分野別発表	探究活動のまとめⅠ	グループ探究準備	グループ探究テーマ設定	グループ探究計画発表	グループ探究中間発表	グループ探究生徒研究発表	探究活動のまとめ2	探究活動再検討	MSECフォーラム 進路探究
	フロンティア科のみ	English Day①	企業訪問	English Day②	English Day③		大学訪問（5回）		English Day④	探究活動英語ポスター作成	探究活動英語発表	English Day⑤	各自の活動	

学びの指導：大学に依頼

○鵬イノベーションコンテスト

協力団体からいただいた実際の課題をグループで取り組んでいくことでコミュニケーション能力と、他者と協働して取り組む姿勢を養います。

対象学年（学科）	指導者	協力団体
I学年（全学科）	各クラスの担任、副担任	地域の企業、大学（9団体）



写真5：協力団体の事前講義の様子



写真6：生徒成果発表の様子



写真7：体育館での表彰の様子

学びの指導：大学に依頼

(例Ⅰ) 鵬イノベーションコンテスト

分野	テーマ（概要）	協力団体
宮崎の教育	生徒とテーマ設定中	宮崎国際大学
宮崎の医療①	更年期を健幸に過ごせるよう若い頃からできる生活の工夫を提案せよ	宮崎県立看護大学
宮崎の医療②	医療従事者不足の現状を踏まえ、宮崎の地域医療において AI や調剤ロボットとどう向き合って（活用して）いくか、地域医療の将来像を示せ	第一薬科大学
宮崎の地域活性	宮崎という地域を活性化するためにはまずどのような問題・課題があるか。それらを解決するためには、どのようにどのように取り組むべきか	南九州大学
宮崎の経済	2024 年の宮崎の 10 大ニュースを一定の根拠をもって独自にランク付けし、それぞれのニュースが宮崎の経済にどんな影響を与えたかを説明せよ	宮崎県キャリア教育支援センター
宮崎の環境	宮崎県の植物や河川の生物の多様性について調べ、これを次世代に引き継いでいくために有効と考えられる取り組みを提案せよ。	宮崎大学農学部
宮崎の情報	DXでは、「行動」、「知識」、「モノ」のデジタル化が鍵となります。少子高齢化や自然災害など、宮崎特有の課題に対して、どのような DX が有効か、具体的な提案をあげよ。	宮崎公立大学
宮崎のサイエンス	半導体によるデジタル技術で実現する次世代スマート社会を（宮崎で）実装するアイデアを提案せよ	宮崎大学工学部
宮崎の文化	外国人労働者が宮崎でも増えている中、多文化共生の秘訣について考えを述べよ	宮崎県国際交流センター

学びの場：地域に依頼

第2学年の探究活動の学びの場として地域からご支援をいただく。



写真9：
地域の住民と伝統文化についてワークショップの様子

写真8：綾町役場との意見交換の様子

地域へのボランティア活動や地域との協働的学びについて

地域との連携の重要性やボランティアの大切さを学びます。

写真 10：

地域のニーズに応えるボランティア活動（地域小学校PTA主催のフェスタに地元中学生、大学生とともにボランティアとして参加）



写真 11：地域と協力して取り組む協働的活動（中高連携事業大きなキャンパスプロジェクト）